

おかげさま



新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

龍は中国で考え出された架空の動物ですが、
日本の禅宗寺院の天井などで見かけることも多い。
様々な説がありますが臨済宗の僧侶 玄侑宗久氏によると、
龍は七つの動物の部分を組み合わせて誕生したのだそうです。

まず胴体は「蛇」で地に足をつけた現実性を意味し、
ヒゲは「鯉」、逆流を遡る強い生命力を表わしている。
攻撃するのではなく、専守防衛のための角は「鹿」だ。
足というか、手は「鷲」で鷲づかみの強い意志を表現している

耳は「コウモリ」で超音波を使う優れた聴覚は昔から知られていたのか。
「ラクダ」に似せた顔は過酷な環境でも呑気な風体を美德としたもの。
最後に入れる眼は、「牛」の眼を参考にしたいが、
牛は純朴で落ち着いているからだといわれている。



天龍寺 雲竜図(加山又造 筆) より

私なりにまとめると、現場重視で現実を直視し、
逆境に強い生命力をもって、攻めと守りができる。
つかんだチャンスを逃さない執念と強い意志をもって、
敏感に情報をキャッチし、常は平静に大らかな心でいる。
こう考えると「龍」はまさに企業経営者の理想の姿ではないか…。

オレが ^がオレが の「我」を捨てよ

なぜ龍にはこのような高度な能力が与えられたのか。
人類はことごとく“天の災い”に苦しんできました。
大雨や雷、竜巻や台風などの突然にやってくる災害や、
時には何日も雨が降らない日照り続きの苦しみもあります。

中国ではこのような天の変化は「龍」という生き物によって生じ、
龍が雲を呼び、恵みの雨を降らせて万物を養うとされました。
万能の力を持つ龍が天を動かし、多くの生物を救うように、
経済界にも高度な能力を持ったリーダーが求められます。

優れた商品を生み出す技術力を持っている人、
商品をお客様のニーズに合わせて売る販売力のある人。
このような能力に優れた人が龍（経営者）となって起業をし、
多くの経験を積んで能力を高め、更に社会に貢献する飛龍になる。

私事で恐縮ですが、経営コンサルタントとしての仕事を、
事業として始めることを決意した時、父に報告に行きました。
小さな飲食店を経営していた父は、笑顔で賛成してくれましたが、
私の性格をよく知った上で、最後にこんな言葉を添えてくれました。

「この心構えを大切にしておくといい。
オレがオレが の“^が我”を捨てて、おかげおかげ の“げ”で生きよ」
説教めいたことは一切言わなかった父が、なぜかこう言ったのです。
その時に深い自覚はなかったのですが、30歳の若僧の心に刻まれました。

数年が経って、事業に危機的な状況がやってきました。

「ここでオレが頑張らなくては……」と踏ん張りましたが、

力めば力むほど、周りの人たちの心は私から離れていきます。

そして父の言葉を長年蓄えた今、ようやく真意が見えてきました。

経営者自身が支えられていることに気づいていない

～ おかげさま ～

神仏からの加護の意味がある「御蔭」が語源とされ、

「さま」を加えて「お陰様」になったと言われている。

今ではお世話になった方への感謝の言葉として使われます。

中小企業の未来は無限に広がっていますが、現実は小さな市場です。

そんな小さな世界で、周囲の人より少し能力のある経営者は、

自分は誰よりも優れ、他者は劣っていると錯覚しやすい。

そうすると、相手の弱点ばかりが目についてしまう。

“オレがオレが…”の^が私の強さはここで生まれます。

技術、営業などすべての面で問題解決の先頭に立っても、

部下の多くは言われたことだけをやる“指示待ち族”になる。

そして、経営者の努力は空回りし、“裸の王様”になってしまう。

ところが“おかげ おかげ…”を意識して人と接していると、

少しずつながら“他者の力（他力）”を感じるようになります。

すると、考え方が合わなかった幹部の意見も耳に入るようになり、

不満として聞こえていた現場の声も、すう～と素直に入ってきます。

「人」という文字が、斜めの画が支え合って構成されているように、

私たちは周りの人の見えない力によって支えられています。

しかし経営者自身が支えられていることに全く気づかず、

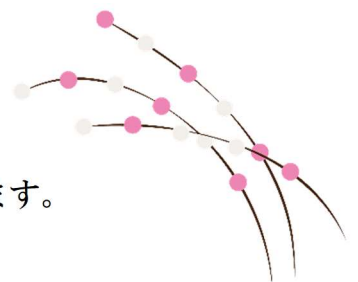
“オレがオレが…”を必死で続けていたわけです。

“おかげさま”は「陽」の人物が「陰」の存在を敬う意味もあります。

「陽」の経営者が、幹部や現場の社員に感謝の気持ちを伝えたり、

家庭を守る配偶者や家族への感謝を生み出す源泉になります。

“おかげさま”は新たな感情を生み出す呪文にもなるのです。



陽が活躍するには 陰の力が不可欠である

～龍は雲を呼び、恵みの雨を降らせて万物を養う～

“陽”である龍が、雨を降らせる雲を呼びこむが、実際に雨を降らせるのは“陰”の役割である雲であり、万能の龍が活躍できるのは、陰の力に依るところが大きい。

経営者の能力も一人で開発し発揮されるわけではありません。卓越した技術を持っていた本田宗一郎が活躍した背景に、副社長として経営面を支えた藤沢武夫がいたように、お互いが補完できるような関係を続けたからです。

これは「いい人と巡り合った」「運がよかった」といった話ではなく、自分の弱点を補ってくれる相手の、優れた長所を見つけだし、その長所が存分に発揮できるように努力を重ねた結果です。

事業を発展させ、天空を舞う飛龍のように活躍した経営者が、いつまでも権限を握ったまま後進に譲らない例があります。先頭に立つ“陽”の魅力に取り憑かれてしまったのか、後方から支える“陰”の価値をご存じないのは…惜しい。

私事の話に戻りますが、当時の危機を一緒に乗り越えた若手が、今では後継者・幹部として素晴らしい活躍をしています。あの時の危機があったからこそ、と感謝に堪えません。家庭生活では、長らく陰の存在を軽く考えておりましたが、今は家事にも精魂を込め、陰と陽が逆転したような毎日です。

陰の力を消極的で弱いものだと考えるのは誤りです。

「雨降って 地固まる」「禍を転じて 福と為す」など、日本には陰と陽の関係を好転させる 諺 ことわざ が山ほどあります。理想の状態を実現するには、陰の力があってこそ…なのです。

人口が減少し、賃金水準も後退した日本は陰の時代の下真ん中。陰の時代があったからこそ、と後々に語れる充実した龍の年にしたい。



株式会社新経営サービス 田須美 弘 (R6.1)

▼ご意見・ご感想は直接下記までご連絡ください

E-mail: tasumi@skg.co.jp FAX: 075-343-4714